

手足の不自由な子どもたち

はけみ

特集 感染症・予防接種2

令和7年度/No.422

6/7

Jun. — Jul.



第43回（令和6年度）肢体不自由児・者の美術展入賞作品「快」
榎引 快斗

はげみ

令和7年度/No.422

6/7

Jun. - Jul.

特集 感染症・予防接種2

目次 Contents

広場	「感染症・予防接種2」の特集にあたって……………水口 雅 …… 2
Sec.1	通所施設や学校における感染対策の基本 ～感染症を持ち込まない、感染症にかからない、感染症を拡げないために～ ……角能 正浩 …… 4
Sec.2	予防接種 ～最近の動向～ ……渡辺 博 …… 10
Sec.3	学校などでの集団生活と感染症 ～麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘など～ ……水口 雅 …… 19
Sec.4	インフルエンザ ……麻生 幸三郎 …… 25
Sec.5	新型コロナウイルス感染症 ……葛西 真梨子 …… 30
Sec.6	ウイルス性胃腸炎 ～ロタウイルス、ノロウイルスなど～ ……高梨 さやか …… 37
Sec.7	細菌性胃腸炎 ～腸管出血性大腸菌 O-157 など～ ……水口 雅 …… 42
Sec.8	肺炎 ～市中肺炎と誤嚥性肺炎～ ……藤本 万友佳 …… 46
Sec.9	尿路感染症 ……下田 木の实 …… 52
今号の表紙	…………… 榎引 快斗 …… 58

広場

「感染症・予防接種2」の特集にあたって

心身障害児総合医療療育センター むらさき愛育園 園長

水口 雅

感染症の中には、いわゆる伝染病（人から人へとうつる病気）もあれば、食中毒（食物を食べてかかる病気）もあります。

学校など子どもの施設は、多くの子どもたちと先生が同じ部屋の中で長時間一緒に親密に生活する場所ですから、伝染病が広がりやすいです。例えば、インフルエンザ流行期には学校で子どもたちが次々とインフルエンザにかかって感染が急拡大し、さらなる拡大を防ぐために学級閉鎖の措置が取られるといった事態がしばしば生じます。

また学校では、多くの子どもたちが給食を一緒に食べます。万一、給食のメニューのどれかが胃腸炎の病原微生物（細菌やウイルス）に汚染されていると、食べた子どもたちの多くが一斉に食中毒の症状を起こしてしまいます。

したがって、学校の子どもたちを感染症からどのように守るか、伝染病や食中毒をどのように予防するか、もし生じてしまったときどう対処するか、これらは重要な問題です。予防対策には集団（学校）レベルのものと、個人（家

庭）レベルのものが 있습니다。インフルエンザ（咳などによる飛沫感染）の場合、集団（学校）レベルの対策は、「学級閉鎖」の前に「かかった児童・生徒の登校禁止」ですし、個人（家庭）レベルでは「人混みを避ける」「マスク着用」「咳エチケット」や「帰宅時の手洗い」、それ以前に「予防接種を受けておく」ことです。食中毒（食べ物からの経口感染）の場合、食材の購入・保存から食品の調理・配膳に至る過程の衛生管理を集団レベルでは学校給食に関して、個人レベルでは家庭の内外での食事に関して進めることです。

本誌「はげみ」は感染症とその予防について、ひと昔前の平成25年に特集「感染症・予防接種」で取り組んだことがあります。平成25年度12/1月号（No.353）です。その前半は「通所施設や学校での感染予防対策の基本」「予防接種」といった感染症予防の総論的な記事、後半は「インフルエンザ」「感染性胃腸炎」など各々の感染症につい

ての各論的な記事で構成されていきました。

その後、平成25（2013）年から令和7（2025）年までの12年間、感染症については二つの大きな変化が生じました。第1に令和元（2019）年、新興感染症として新型コロナウイルス感染症が中国で出現、翌令和2（2020）年には世界中を席卷し、日本でも流行が起きました。令和2（2020）と令和3（2021）年（第1波から第5波まで）は成人中心の流行でしたが、令和4年にオミクロン株が広がってから（第6波以降）は子ども患者も増えました。また、新型コロナウイルス感染症に対して国が感染予防対策を講じる中で国民に対し「3密（密閉・密集・密接）の回避」が早期（令和2（2020）年3月）から呼びかけられ、日本発の優れた標語（英語ではthree Cs）として世界に普及するとともに、感染症予防に関する新たなアイデアを提供しました。第2に、日本の子どもに対する予防接種に関して多くの変更が加えられました。まず、ワクチンにより予防する病原体の範囲が広がり、肺炎球菌、インフルエンザ菌（略称：ヒブ）、ロタウイルスに対するワクチンが新たに定期接種に入りました。また、五種混合（ジフテリア・百日咳・破傷風・不活化ポリオ・ヒブ）ワクチンのように、多種類のワクチンの混合接種や同時接種が推進されました。これにより、「何歳（何カ月）でどのワクチンを接種する」という子どもの予防接種スケジュールも大きく変化しました。

そこで本誌「はげみ」はこのたび、これらの変化を反映

して、前回「感染症・予防接種」の内容を追加・修正し、新しい特集「感染症・予防接種2」を企画・編集しました。具体的には「予防接種」の記事の内容を、前述の変更を踏まえて大きく書き直しました。「新型コロナウイルス感染症」の記事を新たに設け、「インフルエンザ」についても内容をアップデートしました。「感染性胃腸炎」はウイルス性胃腸炎と細菌性胃腸炎の二つに分け、前者でロタウイルスについて解説、後者で腸管出血性大腸菌感染症（O157など）について追記しました。各論の中で12年間ほとんど情勢変化のなかった病気を今回は割愛し、代わりに障害児・者（特に重症の児・者）がかかりやすい感染症「肺炎」と「尿路感染症」を新たに取り上げて解説しました。また、学校感染症の種類や出席停止期間について1枚の表を資料として掲載しましたが、今回は一つの記事として解説文を追加しました。

本特集号が「はげみ」読者の皆さまをはじめ、学校・施設で参考にしていただけたら幸いです。

